

18 春闘を総括し、JR 東労組の再確立に向け最先頭で闘う

村田俊雄 中央執行委員長代理あいさつ（要旨）

本定期大会は 4 月に開催した臨時大会で確認した「職場の声を尊重し、全組合員が納得と共感を持てる運動づくりで新たな JR 東労組を創り上げる」という確認を具体的に実現する端緒とするため、JR 東労組運動の転換を通じて、職場にある JR 東労組に対する「不信」「不満」を「信頼」「期待」へと高めていく大会です。

本部の闘争目標・闘争戦術によって、多くの組合員、役員の皆さまにご迷惑をおかけしてきたことを深く反省し、お詫び申し上げます。JR 東労組として、生み出してしまった現実にしっかりと向き合い、真摯な反省を基礎にして、新たな JR 東労組の創造に邁進していく決意です。

18 春闘を総括するにあたっての視点の 1 点目は、「格差べア永久根絶という要求が前進したのか？」です。定期中央委員会前に申し入れた申 13 号の回答を「17 春闘を下回るもの」として「労使の紛争状態は拡大した」と会社へ通告をしました。これがスト権行使の布石でした。その後、定期中央委員会で「格差べア永久根絶」を要求に掲げ、スト権行使を含むあらゆる闘争戦術を行使して闘うことを決定し、2 月 16 日に闘申 1 号を提出し団体交渉を行うことなく翌週の 19 日に厚生労働省・中央労働委員会・会社へ闘争予告通告を行いました。その闘申 1 号は「所定昇給額を算出基礎にしないこと」とし、「格差べア永久根絶」要求から大きくトングダウしました。そして、「所定昇給額にこだわらない」との回答を「格差べアの永久根絶」と解釈、「その都度協議すること」は大成果としました。この本部見解に、多くの組合員から疑問の声が上がりましたが、本部は応えることが出来ず、「格差べア永久根絶」要求は勝ち取れませんでした。

第 2 点目は、「春闘を闘って組織が強化されたのか？」という視点です。3 万人を超える組合員が脱退しました。吉川委員長（当時）は全地本委員長会議の中で「少数派を辞さず闘い抜く」と言いました。また、去年の全支部委員長会議で「18 春闘で定額回答があったとしても 19 春闘以降も定額回答をしなければスト権を行使して闘う」、年明けには「格差べアの問題は賃金の本質論だ」と提起しました。これらの内容は、三役での打ち合わせもない中、突然出されてきたのです。さらに、戦術についても練り合わせと全く違う内容が提起されるなど、組織運営が独裁的ではないかという疑問がありました。そのような組織状況が弱体化を生み出したと言えます。

第 3 点目は、「次なる闘いの展望は切り開かれたのか？」という視点です。ストライキは労働組合にとって重要な権利です。しかし、スト権の確立も行使も簡単なこ

とではなく、十分な職場討議を含む準備が前提です。17 春闘の一票投票では「スト権確立と行使は別」「行使する際は改めて議論する」などとカグされてきたとするならば、本部指令は、組合員を根本から裏切ってしまったということです。

同時に「格差べア永久根絶」がスト権行使に値する闘争課題であったのか。組合員の求める闘争課題・闘争形態ではなかったことが、多くの組合員の脱退を生み出してしまったのです。

今春闘で、役員・組合員は混乱し、JR 東労組の求心力は衰え、脱退者を大量に生み出す原因をつくってしまったのは闘争課題・闘争戦術にあります。よって今春闘は、「失敗」であり「大敗北」を喫したと総括しなければなりません。私たちはこの総括に立って、JR 東労組の再確立をはかり、企業内労働組合としてのあるべき労使関係を本部が先頭に立ってつくり出していかなければなりません。

現在、「憂う会」なる組織が一部 OB によって結成され、蠢いていることが発覚しました。JR 東労組は「憂う会」は JR 東労組組織の破壊・弱体化を狙った悪質極まりない組織であること、「憂う会」が JR 総連を単に「連絡調整機関」と規定していることは、恣意的解釈であり、JR 総連は産別として結集する単組に対して指導的立場を有する組織であることを中央執行委員会で確認しました。JR 東労組全 12 地本は、組織破壊を企む「憂う会」を絶対に許すことなく、断固として対決していくことを改めて確認し、一丸となって組織破壊に抗する闘いを進めてまいります。

この間、保線部門や乗務員勤務制度の見直しなど施策提案と議論が矢継ぎ早に行われています。JR 東労組は、政策提言能力を高め会社施策に対して真正面から向き合い「安全・健康・ゆとり・働きがい」など、労働者の視点を入れた施策へとつくりかえていくことが重要なことだと考えています。

現在、JR 東日本管内で悪質な列車妨害が多発しています。会社からも「鉄道妨害に関わる事象を知得した場合には、直ちに関係支社等に連絡をいただきたい」との協力要請を受け、JR 東労組も直ちに協力を表明し見解を發しました。

また、今月 9 日には東海道新幹線で暴漢が乗客に切りつけ、制止に入った乗客を殺傷するという痛ましい事件が発生しました。JR 東労組は、乗客・組合員・社員の安全を確保するため、緊急に申し入れを提出しました。今後具体的な安全対策や対応策などについて、議論を深めて参ります。

私たちを取り巻く環境は従来とは違います。緊張感を持って対応し、分会・支部・地本・本部に情報を集中し、悪質な列車妨害をはね除け、安全で安心な鉄道を築き上げましょう。職場に集う組合員が安心して働き、明るく未来を語れる職場を創り上げましょう。そして、脱退した仲間たちをしっかりと迎えられる JR 東労組組織を再確立するために本部が最先頭で奮闘することをお誓いして、挨拶とします。